

本科調査書の記入・作成要領等

<様式 I-2-①、様式 I-2-②共通>

1 作成

- (1) 中学校長又は特別支援学校長は、志願者の調査書（本校が定める様式 I-2-①又は様式 I-2-② A4版表裏両面1枚）を令和6年12月末日現在で作成する。
- (2) 学習の記録が、評定による学習評価が可能な場合には様式 I-2-①、評定でなく文章による記述評価がされている場合は様式 I-2-②を用いて作成する。
- (3) 調査書の各欄は、特に指示するもののほかは、「指導要録」に基づいて記入し、作為があつてはならない。
- (4) 旧年度卒業生の調査書は、卒業後5年を超える志願者については、学籍の記録を除き記入を不要とする。また、卒業後20年を超える志願者については、調査書に代えて卒業証明書を作成して提出する。

中学校卒業	調査書等の作成について
令和 6年3月卒業	令和6年度入学者選考の本校が定める様式を用いて作成する。（令和7年度入学者選考の本校が定める様式を用いてもよい。）
令和 5年3月卒業	令和5年度入学者選考の本校が定める様式を用いて作成する。（令和7年度入学者選考の本校が定める様式を用いてもよい。）
令和 4年3月卒業	令和4年度入学者選考の本校が定める様式を用いて作成する。（令和7年度入学者選考の本校が定める様式を用いてもよい。）
令和 3年3月卒業	令和3年度入学者選考の本校が定める様式を用いて作成する。（令和7年度入学者選考の本校が定める様式を用いてもよい。）
令和 2年3月卒業	令和2年度入学者選考の本校が定める様式を用いて作成する。（令和7年度入学者選考の本校が定める様式を用いてもよい。）
平成31年3月卒業 ～ 平成17年3月卒業	令和7年度入学者選考の本校が定める様式を用いて作成する。 （学籍の記録のみを記入する。）
平成16年3月卒業 以前	卒業証明書を作成する。

※なお、旧年度卒業者の調査書の「現住所」欄は、志願者が現在居住する住所を記入する。

※県外からの志願者も本校の様式で作成すること。

2 各欄の記入

- (1) 数字は、原則として算用数字を用いる。
- (2) 「性別」欄は、「男」又は「女」を記入する。
- (3) 「略歴」欄は、中学校又は中学部の該当する方を○で囲み、旧年度卒業者の場合は「見込」を黒の二重線または一本線で削除する。元号も二重線または一本線で削除して書き換える。
- (4) 「保護者 現住所」欄は、志願者と現住所が同じ場合には「志願者の欄と同じ」と記入する。
- (5) 「特別活動の記録」欄は、第3学年のものを中心に、内容ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入し、それ以外の場合には、－（ハイフン）を記入する。
- (6) 「行動の記録」欄は、第3学年のものを中心に、項目ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入し、それ以外の場合には、－（ハイフン）を記入する。
- (7) 「出欠の記録」欄の「欠席の主な理由」は、欠席の主な理由がある者について、その理由（病名、事故の種類等）を記入する。ただし、欠席日数が学年ごとに合計10日以上ある者については必ず記入する。記入すべき事項がない場合は、斜線とする。
- (8) 「健康の状況 聴力」欄は、4分法による平均聴力レベルを記入する。「その他の健康及び障害の状況等」欄は、就学及び受検上配慮すべき事項がある場合、その事項について具体的に記入する（必要に応じて副申書を添付する）。記入すべき事項がない場合は、斜線とする。
- (9) 「身体障害者手帳」欄は、「有」・「無」のどちらかを○で囲み、「有」の場合には、「等級」欄に「○種○級」を記入する。「療育手帳」欄は、「有」・「無」のどちらかを○で囲み、「有」の場合には、「障害の程度」欄に「A1、A2、B1、B2」のいずれかを記入する。
- (10) 「総合的な学習の時間の記録」欄は、第1学年、第2学年及び第3学年における総合的な学習の時間の活動内容と評価を記入する。ただし、第3学年については、令和6年12月末日までの内容と評価を記入する。
- (11) 「自立活動」欄は、第1学年、第2学年及び第3学年の令和6年12月末日までの学習の状況や成果等についての評価を簡潔な文章で記述する。ただし、自立活動の時間における指導を行っていない場合は記入する必要はなく、斜線を引く。
- (12) 「参考となる諸事項」欄は、各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見、特別活動に関する事実及び所見、行動に関する所見、学校内外における奉仕活動、表彰を受けた行為や活動等の諸事項及び生徒の成長の状況に関わる参考となる諸事項等を記入する。



<様式 I-2-①の場合>

- (13) 「各教科の記録」欄の記入は、次のとおりとする。
- ① 第1学年、第2学年の「観点別学習状況」の評価は、指導要録に記載されたA及びCを転記し、Bは－（ハイフン）を記入する。
 - ② 第3学年の「観点別学習状況」の評価は、令和6年12月末日までの学習状況をもとにA及びCを記入し、Bは－（ハイフン）を記入する。
 - ③ 「観点別学習状況」欄の「計」には、各学年とも各教科におけるAの数の合計を記入する。
※ 一部、他と異なる評価法や基準により評価を行った教科については、「観点別学習状況」の評価に（ ）を付けるとともに副申書（様式は任意）を添付すること。「観点別学習状況」欄の「計」には、（ ）を含めたAの数の合計を記入し、（ ）を付けること。
※ 評価不能の教科については、斜線を引くとともに副申書（様式は任意）を添付すること。「観点別学習状況」欄の「計」には、評価不能の教科を除いたAの数の合計を記入すること。
 - ④ 第1学年、第2学年の評定は、指導要録に記載されたものを転記する。
 - ⑤ 第3学年の各教科の評定は、令和6年12月末日までの学習状況をもとに5段階評定で記入する。
 - ⑥ 「評定」欄の「計」には、各学年とも各教科の評定の合計を記入する。
※ 一部、他と異なる評価法や基準により評価を行った教科については、評定に（ ）を付けるとともに副申書（様式は任意）を添付すること。「評定」欄の「計」には、（ ）を含めた合計を記入し、（ ）を付けること。
※ 評定不能の教科については、斜線を引くとともに副申書（様式は任意）を添付すること。「評定」欄の「計」には、評定不能の教科を除いた合計を記入すること。
※ 一部、他と異なる評価法や基準により文章で評価した教科については、様式 I-2-②の「学習の記録」欄に記入し、それ以外の教科について斜線を引く。左半面には「氏名」のみ記入し、様式 I-2-①と併せて提出すること。
- (14) 「記載責任者」は、学級担任とし、「職」については、教諭、講師等の職名を記入する。

<様式 I-2-②の場合>

- (13) 「学習の記録」欄の記入は、次のとおりとする。
- ① 第1学年、第2学年及び第3学年の令和6年12月末日までの学習の状況や成果等についての評価を簡潔な文章で記入する。
 - ② 「行動及び性格の記録」欄は、学校生活全体にわたって認められる生徒の行動や性格等の状況を記入する。
- (14) 「記載責任者」は、学級担任とし、「職」については、教諭、講師等の職名を記入する。

(留意事項)

- 「行動の記録」「特別活動の記録」及び「各教科の記録」の各欄を除き、特に指示がない場合、記入事項がない欄は空欄とせず、斜線を引くこととする。
- 斜線は、左上から右下（）、右上から左下（）のどちらでもよい。
- 斜線を引く欄が上下や左右に連続する場合、一括して斜線を引いてよい。



3 提出

- (1) 中学校長又は特別支援学校長は、志願者の調査書を入学願書等と併せてろう学校長に提出する。
- (2) 調査書は、本校のホームページ等から取得した様式（様式 I-2-①又は様式 I-2-②）に直接入力したもの、又はそれを複写（コピー）したものに押印して提出する。